

ギタークラフトコース
工場見学レポート
2011年12月13日

株式会社 寺田楽器 蟹江工場

寺田楽器はさまざまなギターを製造する有名メーカー。アコースティックギターやクラシックギターもつくっています。
今回、ギタークラフトコースの学生は、愛知県の蟹江工場を訪問し、製造工程を見学しました。
見学後は質疑応答の時間を頂き、メーカーの在り方や今後の展望を詳しく聞くとともに、就職活動やメーカーが必要とする人材についてのアドバイスを頂きました。



創立 1916 年。
1946 年から本格的にギター製作を開始しました。歴史を感じます。

今回、工場長（本校卒業生）より製造工程を案内して頂きました。



ストック材の山。それぞれ、自然乾燥させています。国産の高級ギターを手がけているだけに材にもこだわりが。



ネックを形成する機械。左手前の機械で細かくプログラム修正を行い、作業を進めていきます。



見るもの、聞くもの、全てが大切なことばかり。学生は真剣そのものです。



熟練の技術に学生は釘付けです。



バフ掛け工程。細かなキズをとったり、塗装面を美しく仕上げます。荒さの違いで、いくつかの段階を踏んでいきます。





電装系を組み込む場所。ココでようやくエレキギターになります。

ボディとネックの接合工程。
フロントピックアップ下までネックが入り込む方式を採用しているため、弦振動の伝達に有利です。
この工程は全体の完成を想定している分、神経を使います。



ボディの接合工程を説明。
機械は昔から使っているものが多く、昔の機械は頑丈で長持ちするから使い勝手が良いとのこと。

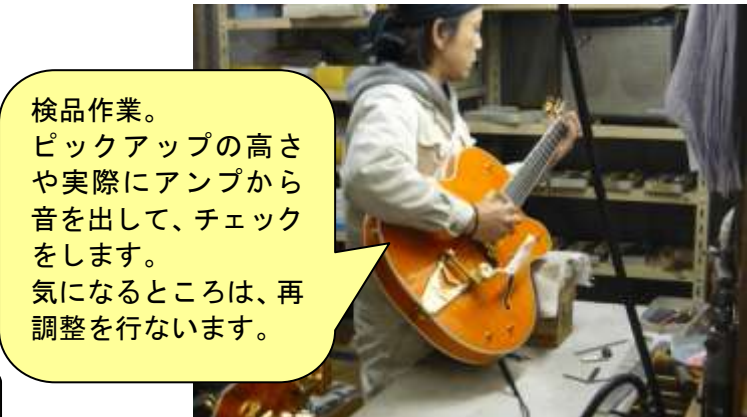


ネックシェイプ工程。
演奏性において重要な工程です。ネックシェイプは曲線なので、常にテンプレートを使いながら形をチェック。
作業工程のほとんどが経験から得た技術です。



塗装工程。
その後の塗装の仕上がりにも影響する重要工程です。元の木の状態を美しく生かした下地工程があるからこそ、完成後の美しさが違います。

質疑応答の時間。
メーカーの在り方や今後の展望を詳しく聞くとともに、就職活動やメーカーが必要とする人材についてのアドバイスを頂きました。



検品作業。
ピックアップの高さや実際にアンプから音を出して、チェックをします。
気になるところは、再調整を行ないます。

